



弁慶が室を持つてくるように命ずる場面



弁慶の従者が箱籠に室を渡す場面



船の乗客が登場する場面

知盛と義経が対決する場面。
リハーサルは、衣装と面を付けて行う。

年明けに演目と配役が決定し、役ごとに所作のお稽古も本格始動しました。狂言は構造上、夏は暑く冬は寒くも寒いのですが、そんな中でも子どもたちは、元気にお稽古をしました。一年間の成果をぜひご覧ください。

嵯峨狂言クラブ

「嵯峨狂言クラブ」は昭和六十三（一九八八）年に、地域の伝統芸能の普及活動の一環として結成されました。

現在、京都市内の就学前児童や小学生として演技所作指導者として嵯峨大念佛狂言保存会有志数名が所属しています。

稽古は、毎週土曜日、午後から清涼寺狂言堂にて行われており、一年に一度二月末・三月初旬に発表会を開催しています。また、保存会の定期公演へも役者として参加することもあり、日々の稽古の成果を披露する機会を得ています。

狂言クラブ メンバー募集中

京都市内在住の幼稚園年少から小学六年生までのメンバーを募集中です。興味のある方はぜひご連絡ください。
狂言クラブお問い合わせ
☎080-1414-4864(加納 敬二)

嵯峨大念佛狂言保存会 今後の公演日程

■春の公演

日時／令和8年4月5日(日)・
4月11日(土)・4月12日(日)
時間／いずれも13時半～
※会場は清涼寺境内、狂言堂

嵯峨大念佛狂言保存会お問い合わせ
☎080-1414-4864(加納 敬二)
E-mail vtm119509@leto.econet.ne.jp
WEB www.sagayogen.info



嵯峨大念佛狂言



嵯峨狂言クラブ

発表会

船弁慶

ふなべんけい

日時 令和八年三月二十八日(土)
場所 清涼寺(嵯峨釈迦堂) 狂言堂
時間 午後一時開場 午後一時半開演



船弁慶

ふなべんけい

あらすじ

平家追討に功績をあげた源義経でしたが、兄の源朝朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。話は、義経が弁慶とともに西国へ逃れようと、摂津大物の浦へ到着した場面から始まります。

浦の船着場は、船に乗るお客で賑わっていました。義経は弁慶と水夫を従えて船出を思案しています。こゝまで同行してきた静御前でしたが、これ以上、女の身を進むことは難しく、やむなく義経と離別することになり、別の水杯を交わします。弁慶は、船の準備を水夫に言い渡し、静御前との別れを惜しむ義経に出航を促しました。

船に向かう義経に、静御前はすがりつきますが、弁慶は強引に二人を引き離し、船出を命じます。ところが船が海に出たとたん周囲が霧

に覆われます。そして、壇ノ浦で滅

びた平家一門の一門の総大将であった平知盛の亡霊が現れ、義経を海に沈めようと襲いかかります。義経は刀で向かい、弁慶は数珠を握って五大明王に祈りを捧げ、亡霊を消し去ろうとします。

後見

橋隆仁 松井銀司 小曾山一良

芳野明 松本理玖

囃子方

(鉦)太鼓加納敏一

(笛)近藤奈央

(松本紗奈 高橋小六)

(池内恵二 西宮高校)

着付方

小西小三郎 小西葉子 中川登志子

松本雅代

記録方

池内恵二

他は船大念佛狂言委員会

嗟峨大念佛狂言

京都市の西京 嗟峨の観音堂の
名で親しまれている源寺の現
内に執行される「嗟峨大念佛狂
言」は、昭和六十一（一九八六）年
に国の重要無形民俗文化財に指
定されました。

役者全員が面を付ける
。参加者が民間人
。セリフが身振り手振り
だけで芝居を進ずる
。という点では大特徴があり、
約二十番の演目が残されていま
す。勧善懲悪・妖怪活劇などを主
題とするもの（カマモン）と、喜
劇仕立てのもの（ヤウラカモン）
に大別される。回数の演目（船弁
慶）はカマモンに属しています。

「嗟峨大念佛狂言」の歴史は古
く、言い伝えは鎌倉時代中期
に藤原公広を伝えた門賢上人導
御の開始とされています。史料
から見て、嗟峨大念佛狂言には
室町時代（享祿二一五〇）年
の銘を持つ厨子伝（二一五九）
年、すでに百年近い歴史を有
していると考えられます。

この他にも、嗟峨を面打で
あった源寺の、権銘を携った女
面（深井や、和宮降嫁の際に宮
中の女官として）とその説得にあ
った高野房の菩提を平らぐた
めに奉納された装束など、美術
史的にも宗教史的にも価値の高
い数々の史料が伝わっています。
昭和三十（一九六三）年、後
継者不足や経済的理由により休
止状態となりましたが、昭和五
十二（一九七五）年に、嗟峨大念
佛狂言保存会が結成され、その翌
年に復活公演を果たします。ま
た文化庁や清涼寺種福徒他、多
くの助成をいただき、平成十
二（二〇〇八）年、活動の拠点を
清涼寺狂言の保存修復工事
を執り行いました。

現在では、春季公演（四月の第
一日曜と）の次の土曜日、秋
季公演（元旦上人の命日と）の言
い伝えがある十月二十六日に
近い日曜、お松明公演（三月十
五日の清涼寺お松明式の直前）
を定期公演としています。



知盛

弁慶

義経

従者



乗船客

静



侍女

水夫

配役

義経

岡田 琴美 (高橋小六年)

弁慶

平井 歩 (嵯峨小六年)

水夫 (前)

松本 波留 (嗟峨小三年)

水夫 (後)

爲季 源太 (嗟峨小五年)

爲季 新太 (嗟峨小五年)

北村 基彰 (西京小五年)

乗船客

岡田 真由美 (高橋小三年)

土坂 美こと (山ノ内小三年)

明石 透吾 (嵯峨小四年)

岡田 梨愛 (夢窓幼稚園年長)

静

延原 啓太 (樽原小三年)

侍女

山下 せり (嵐山小三年)

知盛

大谷 隆弥 (朱雀小三年)